

Tobu通信

さくさく

桜咲タイムで、対話的な学習スキルの習得を

鳥取市立桜ヶ丘中学校



桜ヶ丘中学校では、昨年度より「桜咲タイム」と名付けた短時間グループ・アプローチの実践に取り組んでいます。活動を通して、生徒が自他理解を深めると共に自尊感情を高め、質の高い学習集団を育成していくことをめざしています。さらに、今年度からは、この取組を中学校区の4つの小学校でも始めています。

短時間グループ・アプローチ

- ★毎週水曜日5校時終了後
- ★10分間
- ★全校一斉

「アドジャン」「二者択一」等の構成的グループエンカウンターとソーシャルスキルトレーニングの要素を取り入れた活動。



意識するポイント

- ねらいの提示と振り返り活動の充実
- 話し合いの『型』を身に付けさせる

【話し合いの『型』】

- ・始めと終わりの挨拶
- ・うなずく(受容する)
- ・視線(相手を見る)
- ・表情(笑顔で)
- ・机の合わせ方

学習規律の向上
対話的な学習スキルの習得
良好な人間関係の構築

めざす姿

質の高い学習集団



＜これまでの成果＞

- ◇話し合いの『型』や学習形態としてのグループが、学習場面で活用されている。
- ◇一体感のある活動のため学級・学年の集団づくりに効果的であった。
- ◇小学校6年生への出前授業（桜咲タイム）の実施により、中1ギャップの解消につなげている。

＜今後の取組の方向性＞

- ◇桜咲タイムの定着と充実
- ◇話し合いの『型』を学習場面に積極的に活用できる子どもの育成
- ◇小・中学校の連携によるグループ学習の活性化

「対話的な学習スキルの習得」により、生徒はグループでの活動に慣れ、安心した関係の中で意見交換や教え合いが行えるようになってきています。この取組を中学校区の4つの小学校にも広げることで、共通のゴールイメージのもとに9年間を通して、学習スキルの習得と社会性の育成に取り組んでいくことができます。中学校区の創意工夫のある様々な取組は、小学校から中学校へのスムーズな接続にも大いに効果があるものと期待されます。



9月、心新たに

局長 森本 直子

叱らずに胸に言葉を刻ませる、ほめる、認めることが子どもとのよい関係を築くということを、先生方は知っています。

「〇〇さん、すみずみまでていねいに拭いてくれて、とても気持ちがいいよ。」と、心から子どもをほめることができる先生がいます。「そうか。本当の君ならそういうことはしないよな。その時の自分の気持ちを素直に伝えた方がよかったんだよ。」と、教え諭すことができる先生もいます。

教室には様々な子どもたちがいます。教師の話の聞かなかつたり、授業中に勝手な行動をしたりするのは、子どもが落ち着きがないからと、叱ることがあるかもしれませんが、叱ることも必要ですが、やはりほめることが大切です。子どもたちをよく見ていると、思いがけないよさや成長に気づきます。

さわやかな秋の空のもと、新たな気持ちで子どもたちと向かい合い、小さな努力を認めてほめる機会をつくり、子どもとの信頼関係を築いていきましょう。子どもはぐっと変わります。

学事コーナー

業務改善のために

長時間労働による教職員の多忙化が各種メディアで報じられています。部活動、生徒指導、各種会議など様々な要因があげられています。文部科学省もこの状況を「看過できない状況」としてとらえ、教員の業務の見直しなどを議論するよう中央教育審議会に諮問しました。

そのような中、東部地区小・中学校でも「職場環境づくり」「組織化」「計画」「効率化・簡素化」等の視点で、以下のような業務改善に取り組んでいます。

取組例 (前期学校訪問での聞き取りより)

- ◆ 日報を作成し、職朝の回数を減らす。
- ◆ ペーパーレス会議にし、印刷等の時間を削減する。
- ◆ 会議の終了時刻を決め、その時間に終わる。
- ◆ 生活時程を見直して、児童が15時に下校できるようにする。
- ◆ チラシ等の配布物を厳選し、帰りの会の時間をゆったりと過ごせるようにする。
- ◆ 配布しなかったチラシは玄関等に置き、ほしい人が自由に持ち帰るようにする。
- ◆ メール配信サービスへの保護者の加入を100%にし、電話対応の時間を減らす。
- ◆ 3学期の個人懇談を希望制にする。
- ◆ 〇時以降残って仕事をする場合は校長の指示を得るようにすることで、遅くまで残ることが当たり前にならないようにする。
- ◆ 部活動の休みを「課業日に1日」と「土日のどちらか1日」とし、週2日設定する。
- ◆ 業務改善研修を行い、意識改革をする。
- ◆ 一週間、19時までには退勤することを実施。体験することで、教員の意識改革を行う。
- ◆ 個人目標を設定し、仕事をコントロールする。

学校全体での見直し

時間をかけて「子どもたちのために」していることが、本当に子どもたちのためになっているのか、**学校全体**で見直してみる必要があります。

長時間労働によって・・・



- ・ 体や心の疲れが回復しない
⇒ 燃え尽き症候群、精神疾患のリスクが高まる
- ・ 自己研鑽の機会がなくなる
⇒ 能力（人間性等も含む）が伸ばせない
- ・ ワークライフバランスが崩れる
⇒ 仕事とプライベートに悪循環がうまれる

その影響は・・・



一人一人の意識改革

多忙化は、個々の努力だけで解決できる問題ではありませんが、他人任せにせず、**一人一人**が意識を高くもつことも必要です。

項目	✓
業務改善について、国や県、学校が解決する問題だと他人任せにせず、自分にできることを実践していますか？	
退勤予定時刻を決めていますか？	
出席簿の記入や回収物の点検等、日常の事務作業をためないようにしていますか？	
机上等の整理整頓などを行っていますか？	
仕事に優先順位や軽重をつけ、「〇〇までに～をする。」と仕事に見通しを持っていますか？	
作成したデータや資料を分類し、職員間で共有していますか？	

業務の改善を難しくしている要因は様々ですが、その一つに、どんなに忙しくても「子どもたちのため」と際限なくがんばる「教員の熱心さ」があるという指摘もあります。

子どものためになる仕事は限りなくあります。しかし、そのための人員、時間は限られており、それを大幅に超えた勤務は、様々なリスクを高めると同時に、教職員の自己研鑽の機会をも奪ってしまいます。そしてこれは、結果的に教育の質を落とすことにもつながっていきます。

職員一人一人の意識改革はもちろんのこと、限られた人員、時間の中で、核として取り組むべきことは何か、勇気をもってやめるべきことは何か、これまでの「当たり前」や「前例」にとらわれない学校全体としての思い切った改善が求められています。

社会教育
コーナー



地域ぐるみで子どもを育む

～ 東部地区における優れた地域づくりの実践 ～

東部地区では、それぞれの地域のよさを活かしながら、様々な地域づくりが行われています。東部地区社会教育関係者研修会(6月28日)で報告された、文部科学大臣表彰を受賞した公民館とPTAの優れた取組を紹介します。



東部地区社会教育関係者研修会とは

鳥取県社会教育協議会が主催し、東部地区5市町の教育委員会と東部教育局の社会教育担当者が計画・運営している研修会です。

平成28年度 優良公民館文部科学大臣表彰「優秀館」被表彰館

鳥取市立成器地区公民館 「いきいき成器の特色ある事業活動」

殿ダムと地域の豊かな自然や農産物を活用し、地区住民が総力を挙げて様々な「じげおこし」を展開

ウォーキング大会や音楽祭で地区外から多くの人を呼び込むイベントを実施しています。地元中学生も運営で活躍しています。



ウォーキング大会



地区住民による保育園の運営

地区住民が保育園を運営しています。地区外からの入園も多く、地域で様々な交流活動を行っています。

いきいき成器太鼓、成器っ子クラブなど、地区の子どもたちの体験活動や世代間交流を推進しています。



いきいき成器太鼓



地区の運動会に参加する高校生

地区の体育館を部活動で利用している高校生が、様々な地元の行事に参加し、交流しています。

平成28年度 優良PTA文部科学大臣表彰 被表彰団体

鳥取市立東郷小学校PTA 「むらづくりはエンターテイメント」

PTAを中心に、NPOや公民館などの地域の各機関が連携した地域ぐるみの活動を展開



魚のつかみどり



どろんこまつり



稲作プロジェクト



防災研修



ツリーハウスづくり

子どもたちの「生きる力」を育み、地域に誇りを持てる人材の育成をめざしたPTA活動や地域活動を数多く実施しています。

鳥取市の小規模校転入制度で、校区外からの通学もあります。PTAとしても「選ばれる学校」をめざし、特色ある活動に積極的に取り組んでいます。

保護者がNPO法人「とうごう未来応援隊」を立ち上げ、新たな地域づくりの拠点となっています。地区の保育園でも、地区外からの入園が増えてきています。

どちらの取組も、子どもたちのいきいきとした活動を通して地域づくりを行っています。子どもたちが地域に愛着をもち、将来地域を担うことを願いながら、工夫を凝らしています。子どもや学校の抱える課題の解決、未来を担う子どもたちの豊かな成長のためには、社会総がかりでの教育の実現が不可欠です。園や学校も、公民館、PTAなど、地域の様々な組織と連携・協働し、「地域とともにある園・学校づくり」を進めていくことが今後も求められます。